

大人から、子どもたちへの関わりを見直してみませんか。

今回のアンケートの結果から、小金井市内の子どもたちの大部分は、年代に関係なく学校や家庭を過ごしやすい場としてとらえ、充実した学校生活を送っています。

一方、保護者が思うほどには、自分に自信をもっていないことがわかります。これは、「**小金井市子どもの権利に関する条例**」の前文にある「愛情をもって教え導かれ、見守りはぐくまれ」、「安心して成長」しているのですが、「自分自身を大切に思い」の部分、すなわち「**自尊感情**」が、周囲の大人が思っているほど高くはなく、低いということだと思われまます。

それでは、この**自尊感情**を高めるにはどうしたらよいのでしょうか。

それは、子どもの「やる気の素」、「元気や意欲の素」になる「心のエネルギー」を育てることにあります。そのエネルギー源は3つの要素で成り立っています。

「安心感」

家庭や学校がほっとでき、自分の意思を伝え、受け入れられる場である。

「楽しい体験」

友だちや家族で何かを楽しんだり一生懸命打ち込んだ充実感・達成感などがある。

「認められる体験」

家族や先生、友だちからほめられた、感謝されたなどの経験がある。

これらは、家庭・学校・地域の大人が、子どもたちとの日々のコミュニケーションを取る中で育まれるものです。ほっとできる、安心感をもてる場、自分の意思を伝え、受け止められる環境をつくる。頑張っている子どもたちや我が子を知る。「楽しい体験」や「認められる体験」を増やす。そんな機会が多ければ多いほど、自尊心や自己肯定感の高い「自分自身を大切に思う」子どもが育っていきます。

小金井の子どもたち一人ひとりが、「**かけがえのない自分!**」に気付き、そのもてる可能性を發揮できるように、さらに大人からの声かけを多くしていきましょう。

☆「**小金井市子どもの権利に関する条例**」の前文の一節には、

子どもは、愛情をもって自分のことを考え、接してほしいと願っています。子どもは、成長の過程で、間違えることもあります。そんなときも、愛情をもって教え導かれ、見守りはぐくまれることで、自分自身を大切に思い、安心して成長することができます。

とあり、さらに、条例では、子ども達の「安心して生きる権利」「自分らしく生きる権利」「ゆたかに育つ権利」「意見を表明する権利」「支援を受ける権利」を定めています。そのために、家庭(親など)・育ち学ぶ施設(市・学校など)・地域の大人に、権利を保障することを求めています。

小金井市青少年問題協議会 (平成25年6月)

小金井市ホームページ

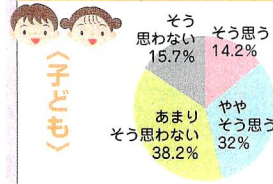
検索

<http://www.city.koganei.lg.jp/>

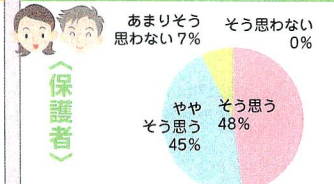
かけがえのない自分!

～我が子に自信を持たせるには～

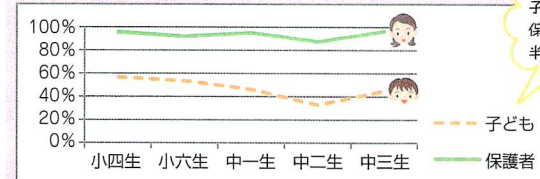
私は自分のことが好きである



お子さんは、自分のことが好きであると思う



「そう思う・ややそう思う」と答えた子ども・保護者の割合(学年による変動)



子どもの回答は、保護者の感じ方の半分に満たない!

※小金井市の小・中学校の児童・生徒とその保護者へのアンケートから

小金井市では、子どもの権利を保障し、子どもの健やかな成長を願って「**小金井市子どもの権利に関する条例**」を制定しています。

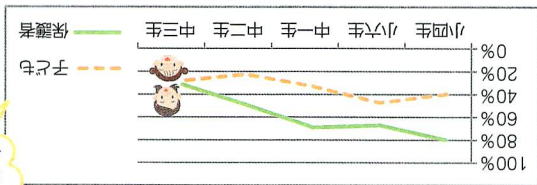
小金井市の子どもたちの「自尊心・自己肯定感」について、子どもとその保護者はどう感じているのか。その実態を探るべく、アンケート調査を実施しました。

<アンケート調査方法>

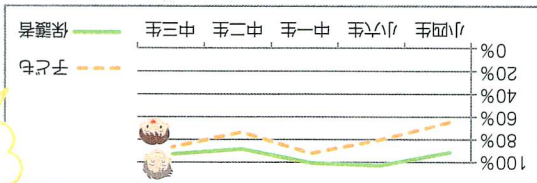
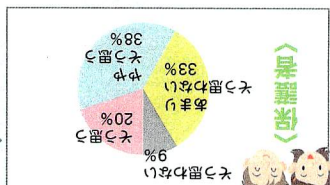
- 実施時期=子ども：平成24年5月 / 保護者：同年7月
- 対象=市内小学校2校、中学校2校(小4・小6・中学1～3年生)で1学級ずつ抽出
- 回答数=小学校(子ども：120人 / 保護者：96人)
中学校(子ども：205人 / 保護者：180人)

このページの印刷を禁止するものではありません。

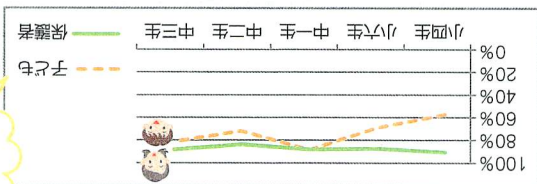
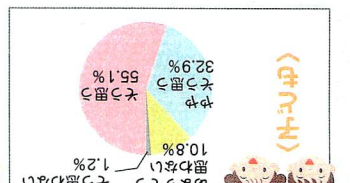
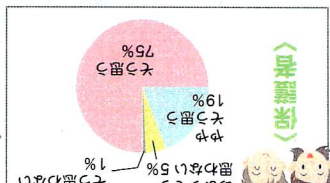
「学校生活」について、「子ども」と「保護者」の感じ方を比べてみます。



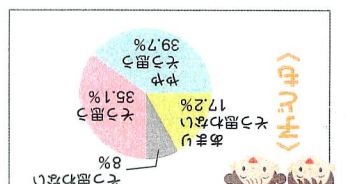
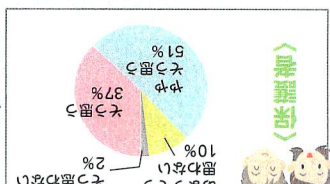
成長するにつれて、自己肯定感が高まる傾向がある。



自信が強い子どもが多い傾向がある。



学校生活は、過ごしやすい。



「そう思う・ややそう思う」と答えた子ども・保護者の割合(学年による変動)

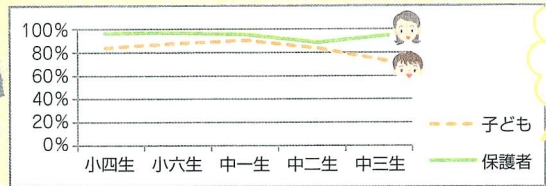
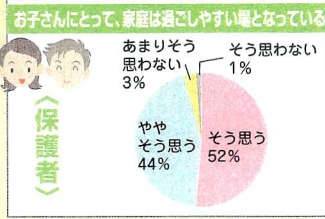
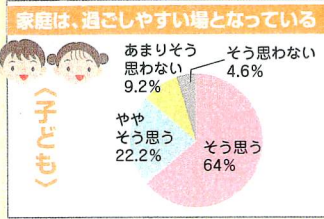
※裏面に「自尊感情/学校編」があります。

<自尊感情/学校編>

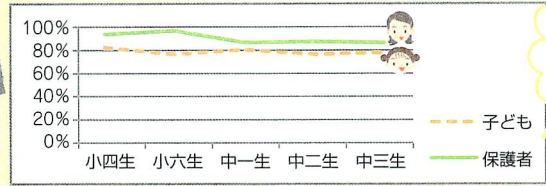
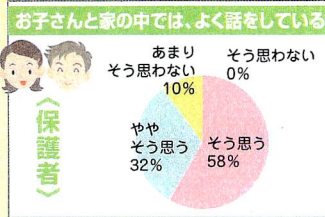
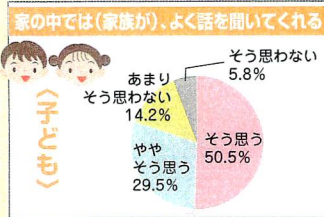
〈自尊感情/家庭編〉

※裏面に〈自尊感情/学校編〉があります。

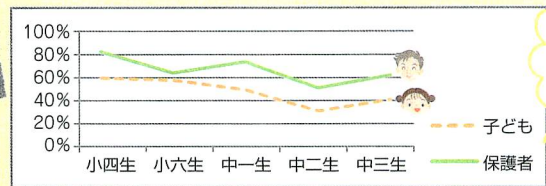
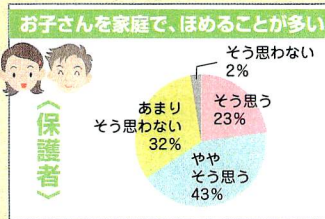
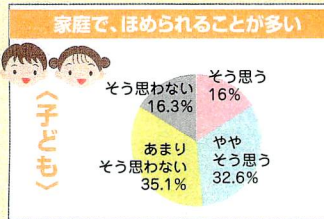
『そう思う・ややそう思う』と答えた子ども・保護者の割合(学年による変動)



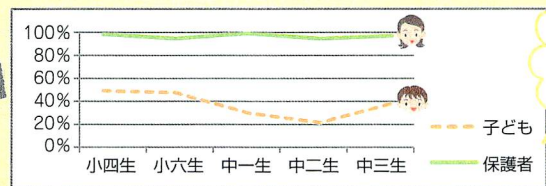
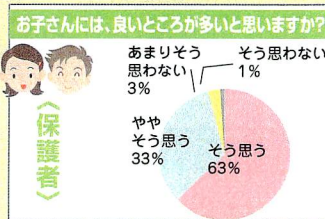
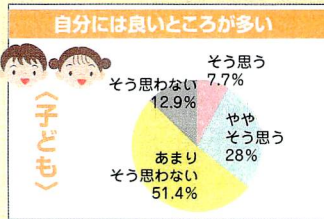
多くの家庭は
過ごしやすい!



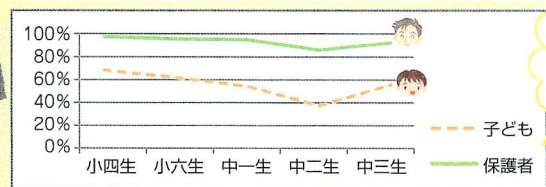
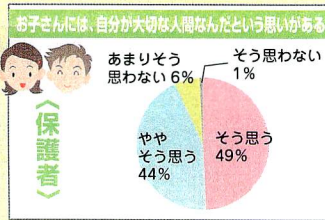
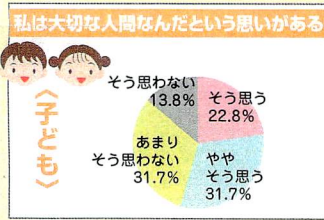
ちゃんと話を
している
家庭が多い!



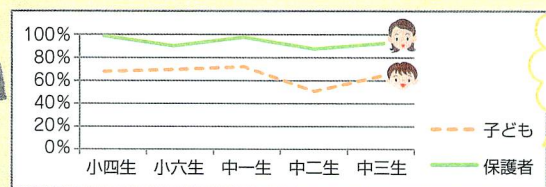
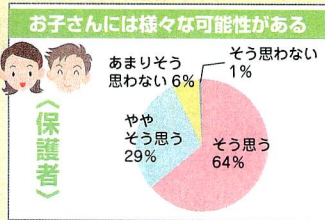
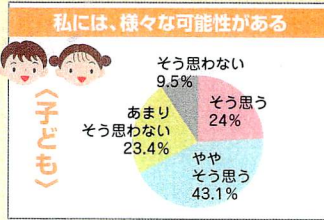
ほめていると
伝わってますか?



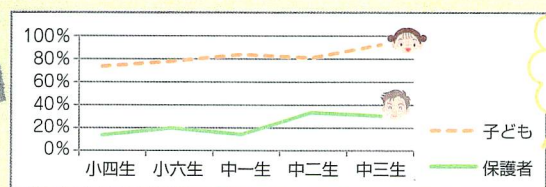
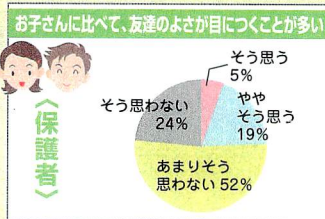
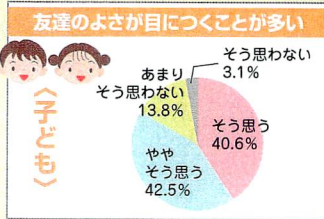
子どもの良い
ところを
言葉にしませんか?



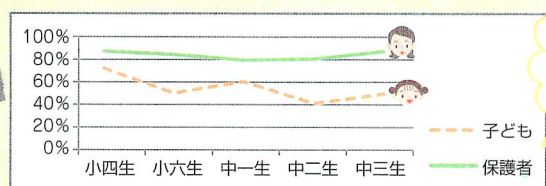
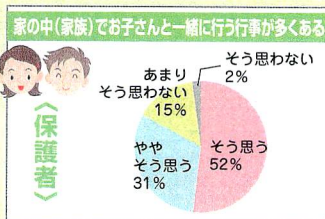
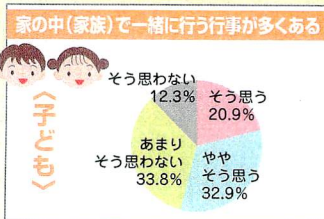
大切な人間だと
伝わってますか?



親の期待は
子ども本人以上
です!



友達思いの子、
自分に厳しい子、
自信がない子、
が多い?



家族の行事は
もっと多い方が
よい?

「家庭生活」について、「子ども」と「保護者」の感じ方を比べたものです。
 「子ども」「保護者」とも、家庭が過ごしやすく、保護者とのコミュニケーションがよくとれていることがわかります。反面、「ほめられる」「ほめる」ことは家庭でも、学年があがるごとに下がっています。また、子どもたちの「自己評価」は、保護者が感じているほど高くなく、どの学年でも保護者の半分程度です。「家族一緒に行事」については、保護者が感じているほどには、子どもたちは満たされていないことがわかります。